

- 2面 決起集会・関西/広島/高松
- 3面 決起集会・網走/大阪  
第84次FOC・POCキャンペーン  
名古屋/関西
- 4面 連合中央集会 ナゴヤシップサービ  
ス組合員大会 JSS調理研修

# 船員しんぶん

◆ホームページアドレスhttp://www.jsu.or.jp◆Eメールアドレスkaiin@jsu.or.jp

全日本海員組合発行第2633号(昭和25年8月24日第三種郵便物認可)

2011年(平成23年) 2月15日  
本紙は毎月5・15・25日発行

〒106-0032 東京都港区  
六本木7丁目15番26号  
全日本海員組合本部  
発行人 立川 博行  
TEL 03-5410-8329  
FAX 03-5410-8337  
定価1部50円(組合員の  
購読料は組合費を含む)

## 航路休止で解雇 明石 デモで訴え



船員の雇用と家族の生活を守れ!

関西  
地方支部  
決起集会

組合として地方では初めて開催する海員総決起集会が、1月17日の「九州関門地区総

2~3面

## 各地の決起集会

決起集会」を皮切りに、北海、道網走地区、関東地区(横浜)、関西地区(神戸)、大阪地区、広島地区、高松地区、愛媛地区(松山)、長崎地区で開催

され、現場組合員とその家族、全国海友婦人会、船員OB、組合政治参与など業界関係者が多数参加した。

集会では、国の道路偏重政

策に断固反対のほかフェリー・旅客船の存続と港町活性化、船員税制の早期実現、水産物輸送の活性化などを求める決議を採択し、関係自治体への請願・陳情・要請行動を行っている。合計22地区で開催予定。

組合の申し入れ内容を補足する質問・意見に対して水産庁から回答が示された。▽政府のさらなる強固な妨害行為対策。IWC正常化交渉における南極海の調査捕獲頭数削減に対する厳格な対応▽シーシェパードの犯罪者集団としての認識。捕鯨母船の代替船建造の考え▽日新丸船団乗組員への安全第一の考え▽順法精神、労働関係法令を守らない遠洋マグロ漁船への厳格な指導▽後継者問題▽漁業所得補償制度の詳細な説明▽漁船海難事故撲滅と安全操業確立の対策▽TPP問題での水産庁の考え方・対応▽地域の基幹産業となる水産業を核とした港町興隆への取り組み▽遠洋トロール漁業の維持存続と技術伝承を図るため国家的支援など。

## 生命・財産を脅かす行為 許さない

## 水産庁と漁業労働問題協議会 2月1日



2月1日午後3時から約2時間、水産庁で漁業労働問題協議会を開催した。水産庁から宮原正典次長と関係部局の12人、組合からは大内組合長代行、田中組合長代行ら8人と天野忠市日本水産職場委員、大越親正共同船舶職場委員、赤間英之日本海洋事業職場委員が出席した。

大内組合長代行(写真下)が「農林水産大臣に申し入れた組合の定期全国大会決定事項の回答をいただき、本日の出席者で協議し、今後の水産政策への十分な理解を得たい」と述べ、協議に入った。

全国大会の決定に基づき、12月24日に農林水産大臣に申し入れた「水産政策に関する申し入れ」の中から重点項目9項目の回答があった。

宮原次長は、港町・地域活性化について「居住環境の改善、漁船の安全性の向上などを図りつつ、収益性の向上への取り組み」などと述べた。

またIWC対策と反捕鯨団体の妨害行為への対策について、次のように回答した。

引き続き商業捕鯨再開に向けて関係国へ働きかける姿勢に変わりはない。捕鯨母船の老朽化については、国として対策が可能か検討していく。

シーシェパードのわが国調査船団に対する度重なる妨害活動は、調査捕鯨に従事する船舶と乗組員の生命・財産を脅かす極めて危険な行為であり、断じて許されるものではない。関係官庁と連携し、船舶と乗組員の安全第一で今後とも調査を継続する。

このほか▽水産予算の効果

## 明石淡路フェリー 航路再開を申し入れ

2月4日 大畠国土交通大臣へ



中央が大畠国土交通大臣、右は三日月組合政治顧問、左は藤澤組合長

2月4日、組合は大畠章宏国土交通大臣に対し、明石淡路フェリーの航路再開を申し入れた。藤澤組合長、松浦総務局長、富永内務部長、勘場組織部長などに、三日月大造組合政治顧問が同行した。

藤澤組合長は航路の現状を説明し、国策として航路再開に向けた支援を強く要望した。これに対し、

大畠国土交通大臣は「内容は三日月議員より聞いている。現在審議中の交通基本法でも移動権は重要な国民の権利と位置付けており、交通弱者をどう支援していくかが課題となっている。本件に関しては今後、三日月議員と申し入れ内容について検討し、国としてどのような支援ができるか前向きに検討したい」と答えた。その上で、早急に支援に関する計画書を作成するよう組合に求めた。

同航路は度重なる通行料金

の値下げや燃油高騰など厳しい状況にあっても、交通弱者の輸送手段を果たしてきた。阪神大震災では緊急援助物資の輸送を担い、危機管理面で大きく貢献してきたことは認識されている。

高速道路割引の偏重政策に影響を受け、休止に追い込まれ、離職者と家族の生活が脅かされている。フェリーが担ってきた重要な公共性を考え、次の事項について早期に実施するよう要請した。

①明石-淡路航路再開について具体的なかつ実効性のある施策を早急に実施する。

②離職を余儀なくされた船員とその家族の雇用・生活安定に万全を尽くすこと。



右から3人目が水産庁の宮原次長

的配分・代替船建造への取り組み▽水産資源の確保▽水産物輸送と輸送規制の強化・水産物輸出の促進▽漁業外交の促進▽遠洋マグロ漁船の順法精神と適格性▽漁船海難事故撲滅と安全対策▽後継者確保策への回答があった。

組合の申し入れ内容を補足する質問・意見に対して水産庁から回答が示された。▽政府のさらなる強固な妨害行為対策。IWC正常化交渉における南極海の調査捕獲頭数削減に対する厳格な対応▽シーシェパードの犯罪者集団としての認識。捕鯨母船の代替船建造の考え▽日新丸船団乗組員への安全第一の考え▽順法精神、労働関係法令を守らない遠洋マグロ漁船への厳格な指導▽後継者問題▽漁業所得補償制度の詳細な説明▽漁船海難事故撲滅と安全操業確立の対策▽TPP問題での水産庁の考え方・対応▽地域の基幹産業となる水産業を核とした港町興隆への取り組み▽遠洋トロール漁業の維持存続と技術伝承を図るため国家的支援など。

大内組合長代行は、小中学生を対象にした体験乗船、船員教育機関学生への奨学金制度、船員税制を通じた船員職業の魅力回復、地区での決起集会による地域の活性化を含めた組合活動を紹介し、水産庁の取り組みを要請した。

最後に高橋水産局長が「厳しい意見も出たが、水産業を守っていくための率直な意見である。今後も水産業発展に尽力いただき各官庁との連携で諸問題の解決を図ってほしい」とあいさつし、終了した。

## 激震

大相撲の八百長(やおちよう)問題が連日ニュースで取り上げられている。八百長相撲は随分昔から話題になっていたはず。大相撲界の野球賭博事件で警視庁が押収した複数の現役十両力士の携帯電話に勝ち星の売買など、八百長行為に關与したとみられるメールの記録が確認された。

相撲協会はこれまで一貫して八百長疑惑を否定してきた。暴行死、大麻、野球賭博など様々な醜聞から再生を誓った相撲界は再び「激震」に襲われた。八百長とは「いんちき」の意で、真剣に争っているように見せながら、事前に申し合わせた通りに勝負をつけること。明治時代の八百屋の店主だった長兵衛に由来するといわれる。長兵衛は通称八百長といわれ、大相撲の年寄・伊勢の海五太夫と囲碁仲間であった。囲碁の実力は長兵衛が勝っていたが、八百屋の商品を買ってもらう商売上の打算からわざと負けて五太夫の機嫌をとっていた。しかし、その後、同院近くの基金会開きの来賓として招かれていた本因坊秀元と互角の勝負をしたため、周囲に長兵衛の本当の実力が知れ渡り、以来、真剣に争っているように見せかけながら事前に申し合わせた通り勝負をつけることを「八百長」と呼ぶようになった。▼無気力相撲ですべて中止され、長い歴史に最大の汚点、再起はできるか。

# な道路偏重政策に 断固反対する

## 地域公共交通機関のフェリーを守れ

### 関西地方支部決起集会

2月3日午前10時から兵庫 県明石市の明石淡路フェリー 船着場で、組合と全国海友婦 人会共催の「海員関西地方支 部決起集会」を開催し、職場

委員、現場組合員とその家族、 組合OB、政治参与のほか、 神戸港湾労働組合協議会、全 日本港湾運輸労働組合同盟員 庫地方本部などから約150 人が参加した。

関としてフェリーが果たして きた役割と必要性をアピール し、3本の決議を採択した。 集会は、遠藤関西地方支部 副支部長の司会で始まり、後 藤関西地方支部長、田中中国 内 局長、全国海友婦人会近畿・ 北陸ブロックの奥山マリ子ブ ロック長があいさつした。後 藤関西地方支部長は「高速道 路架橋通行料問題と海上イ ンフラ整備の早期実現、明石 淡路フェリーの航路再開と雇 用対策をここで確認した後、 直ちに地域公共交通機

田一美議員(組合政治参与) が来賓あいさつを行った。黒 田議員は「海の道は大切な公 共交通機関であり、港町神戸 に必要不可欠である。民主党 や政府の方々に認識してもら うために活動していく」と述 べた。

長は「航路休止から2カ月半 たったが納得がいかない。現 在、高速道路無料化に向けた 実験が行われているが、実験 段階ですでにわれわれのよう な失業者が出たという事実を 認識すべきだ」と述べた。

3本の決議は満場の拍手で 採択され、最後に大島関西地 方支部副支部長の音頭で「船 で働く船員の雇用と家族の生 活を守るためガンパロー」を 三唱し、閉会した。

社などから48人が参加した。 集会は遊佐高松支部次長の 司会で始まり、主催者として 斉藤高松支部長は「長い歴史 の中で港町が発展し、海上で は多くの船員が地域経済のた めに日夜安全運航に努めてい ることを訴えなければならな い。海洋立国日本の大動脈、 海運と港湾・水産産業は地方 経済の発展、港町の活性化に 必要不可欠だ。組合は、組合 員の生活を守ることを基本 に、全国海友婦人会とともに 組織の総力をあげ運動を展開 する」とあいさつをした。

その後、組合を代表し富永 国内部長、全国海友婦人会の 塩田幸子四国ブロック長があ いさつした。

富永国内部長は「フェリー 旅客船が国の誤った道路政 策で再び犠牲を強いられるこ とは断固反対しなければなら ない。公平・公正な交通政策 により子や孫たちが安心して 暮らせる社会の実現のため、 団結して闘い続けることを強 く宣言する」と述べた。続け て村上豊香川県議(政治参 与、四国交通労働協会の真鍋雅洋 議長、四国港湾の橋崎正伸幹 事、内海フェリーの秋村善道 社長が来賓あいさつをした。



明石銀座をデモ行進(上) 後藤関西地方支部長が主催者あいさつ(下) 長、兵庫県議会の黒

この後、元明石淡路フェリ ーの中野達也船長が「明石 淡路航路」フェリーの運航再 開と職業者の雇用対策を求め る決議、「ダイヤモンドフェリ ー」の馬淵勇輔船長が「雇 用と生活を奪う道路偏重政策 に断固反対し、公平・公正な施 策ならびに職場確保を求める 決議」ジャンボフェリーの宮 本重利船長が「海上モーダル シフトの早期実現を強く求め る決議」を上程した。中野船

集会終了後は集會会場から 明石公園までの約1.5キロをデモ 行進。午後からは井戸敏三兵 庫県知事、天田二郎神戸市長、 北口寛人明石市長、神戸運輸 監理部の関元貴至監理部長に 対し採択された決議文を手渡 し、申し入れを行った。

2月7日午前10時30分から サンポート高松6階会議室で 「海員高松地区決起集会」を 開催。現場組合員と家族、政 治参与ほか四国地方交通運輸 産業労働組合協議会(四国交 運労働協)、四国地区港湾労働組 合協議会(四国港湾)、各船

塩田幸子全国海友婦人会四国 ブロック長があいさつ

を求め決議案を瀬戸内海 汽船の田村聡職場委員と本四 バス開発の小林栄一職場委員 が上程し、全会一致で採択し た。最後に狹山地方支部次長 の音頭でガンパロー三唱を行 い、集会を終えた。

集会終了後、陳情団らは香 川県と岡山県側に分かれ、関 係地方自治体・民主党県連な どに申し入れを行い集會決議 を手渡した。

## 船舶の必要性を広くアピール

### 広島地区決起集会

中・四国地方支部は2月4 日午後1時から同支部3階大 会議室で海員組合・全国海友 婦人会主催の海員広島地区決 起集会を開催し、現場組合員 とその家族、政治参与、国会 議員ほか担当各社などから約 120人が参加した。

ていきたい」と述べた。 メインスピーカーは「道路 偏重政策に断固反対 公平・

公正な交通体系の構築を！」。 また「公平・公正な交通政策 による持続性ある安定した雇 用対策実現を」「地域住民の 移動と地域経済を支える航路 維持政策確立を」をサブスロ ーガンに掲げた。

鴨頭中四国地方支部長が 主催者あいさつ

て許されない。本決起集會で は2本の決議案を上程する。 広島県の港町地域活性化の実 現と不公正競争を誘発する道 路偏重政策に断固反対し、本 四架橋で働く組合員の職場が 二度と奪われることのないよ う決議案を満場一致で採択願 いたい」とあいさつした。

また、船主団体全内航の埴 野廣文会長、中国地方海運組 合連合会の藤井肇会長から寄 せられた檄文も披露された。

この後、集會の決議案とし て「公平・公正な交通体系の 構築による職場確保および地 球環境保全を求める決議案、 「道路偏重政策に断固反対し 瀬戸内海汽船の田村聡職場委員

らの陳情団は、中原県議と金 口県議が同行して広島県の湯 崎英彦知事、広島県議会の林 正夫議長、広島市の秋葉忠利 市長、広島市議会の藤田博之 議長、民主党広島県総支部連 合会の三谷光男代表に対し、 採択された決議文を手渡し、 政策実現に向けた諸施策を講 ずるよう要請した。

集会終了後、田中組合長 代は「現状を看過すればフェ リー・旅客船業のみならず 海運業、水産業は壊滅的な打 撃を受ける。これに対し、わ れわれ当事者が声を上げ、海 運産業の維持・発展、興隆 こそが国民生活の安定・維持 発展に寄与することを主張し



組合を代表して田中組合長 代は「現状を看過すればフェ リー・旅客船業のみならず 海運業、水産業は壊滅的な打 撃を受ける。これに対し、わ れわれ当事者が声を上げ、海 運産業の維持・発展、興隆 こそが国民生活の安定・維持 発展に寄与することを主張し

集会は、野村地方支部次長 の司会で始まり、鴨頭中四国

環境に優しく緊急時の代替輸 送モードである船舶の必要性 を広くアピールした。

また、船主団体全内航の埴 野廣文会長、中国地方海運組 合連合会の藤井肇会長から寄 せられた檄文も披露された。

この後、集會の決議案とし て「公平・公正な交通体系の 構築による職場確保および地 球環境保全を求める決議案、 「道路偏重政策に断固反対し 瀬戸内海汽船の田村聡職場委員

を求め決議案を瀬戸内海 汽船の田村聡職場委員と本四 バス開発の小林栄一職場委員 が上程し、全会一致で採択し た。最後に狹山地方支部次長 の音頭でガンパロー三唱を行 い、集会を終えた。

集会終了後、田中組合長 代は「現状を看過すればフェ リー・旅客船業のみならず 海運業、水産業は壊滅的な打 撃を受ける。これに対し、わ れわれ当事者が声を上げ、海 運産業の維持・発展、興隆 こそが国民生活の安定・維持 発展に寄与することを主張し

# 船員の雇用と生活を奪う 理不尽

## 水産業興隆と船員税制改革に向け

### 網走地区船員決起集会

2月8日午後3時から、網走漁業協同組合会議室で、水産業興隆と船員税制改革の早期実現を求める「網走地区船員決起集会」を開催した。この集会は、網走漁業協同組合と網走船員OB会の協力により開催され、現場組合員、組合員OB、漁業関係者など73人が参加した。

スローガンは、求めよう！  
▽道水産物の消費の消費定着・拡大に向けた政策を！  
▽安定的な漁業経営の確立と希望と活力にあふれた網走水産業構築を！  
▽網走の基幹産業を支える船員に住みよ！



北海道地方支部長が「この集会で北海道で最初となる網走地区からの決議案が上程される。満場の承認で採択された決議案を網走地区から地方自治体などへ陳情活動を進めたい」とあいさつした。

本部を代表して野田水産部専任部長は「地域・地方の港町を皆さんとともに活性化し、地域の声をあげることが日本の水産物の発展につながる」と考える。地域の皆さんが一致団結し、地方自治体や関係漁業団体・OBとの連携で、網走地区の活性化をめざしたいとあいさつした。

あいさつに立つ佐藤北海道地方支部長



カいっばいシュプレヒコール

丸船内委員長が「網走の水産業興隆と船員税制改革の早期実現を求める決議案」を上程満場の拍手で採択した。

最後に清水道北支部次長の発声でシュプレヒコールを行い、閉会した。

翌9日、佐藤北海道地方支部長など執行部5人と、現場代表として渡辺國男・第8昇陽丸船内委員長、小林靖・第21吉祥丸船内委員長、金丸信・第3邦恵丸船内委員長が同行し、網走市長、市議会議員、オホーツク総合振興局長、民主党網走支部長に決議文を手渡し陳情を行った。

## 困難打破へ力強い運動継続を

### 大阪地区決起集会



大阪港の岸壁に120人が陣取った

大阪地区決起集会は、2月10日午前11時から、大阪港のフェリーターミナル岸壁で開かれ、停泊中の「さんふらわあ あいぼり」の乗組員などのほか関係者120人が参加した。

岸壁に陣取った参加者は、フェリー輸送の継続、航路の維持が困難な状況に追い込まれている厳しい事態を打破しよ

と決議を採択した。決議は、国費投入による架橋・高速道路通行料金の大幅引き下げ・無料化政策により航路撤退の危機に瀕しているフェリー・旅客船事業者救済とモーダルシフト推進のための物流政策に関する税制などに特別措置を講ずることを求めるもの。

集会は、大倉大阪支部副支部長の司会で始まった。主催者として横山大阪支部長と組合本部を代表して田中中央執行委員長が、政策支援を強く求めるとあいさつした。来賓として黒石真関西汽船社長、連合大阪の村田憲彦副事務局長、大阪交通運輸産業労働組合協議会の北島正俊議長、半



田實大阪府議会議員があいさつした。この中で力強い運動の継続、公正な競争によらない危機、地域住民の足の確保へ労使一体、職場を守るために一緒に頑張ろうなど岸壁をどよめかす激励と連帯のあいさつが続いた。

また、ターミナル近くのATCホールでは、阪神・淡路大震災のときに活躍した船舶などのパネル展示も13日まで行われた。2月13日には同港で停泊中の関西汽船のフェリー「さんふらわあ こぼる」との船内見学も実施された。

## 安全設備点検に重点

### 名古屋



査察中

【名古屋支部】小久保寿也通信員】1月25日から27日まで名古屋地区FOC・POCキャンペーンを実施した。組合はじめ、東海地区港湾労働組合連絡協議会、名古屋港湾関係労働組合協議会、また航空運送愛知からオプサーバーとして8人が初参加した。

係船ロープの劣化など安全設備点検にも重点を置いた。各船にキャンペーンの趣旨説明とITF協約の締結を訴え、荷役装置、甲板装置などを厳重に査察した。その結果香港船籍「CHANG TAI HONG」の右舷アフタースプリングラインの損傷を確認し、PSCへ通報。即日同船に対し改善指導が行われた。その他5隻に警告文を作成し、船長に手渡した。

参加した港湾関係者が「以て対話する意思をまったく示さなかった。

その後、元請けの協力もあり、船長に対して岸壁から折衝を行い、メッセージなどを手渡しして乗船を試みた。しかし、以前のタラップを巻き上げるという対応から一転、ITSPSコードに抵触すると主張し、乗船を拒否させるという悪質ぶりをみせた。

こうした行為から乗船はできなかつたが、これまでとは異なり、船長と対話できたことは大きな前進であった。

今回のキャンペーンは、総括として、今後も多数の未組織FOC船に対し、積極的にITF協約締結に向けて取り組むこととした。

## 興徳ISPS抵触を主張

### 関西



船長と対話し、乗船を求める査察団

【関西地方支部】佐藤宗昭通信員】1月25日から27日まで、神戸港でFOC・POCキャンペーンを実施した。海員組合、港運同盟、神戸港湾職場委員の協力で延べ46人が参加し、合計10隻を査察した。そのうち3隻に対してITF協約締結を求め、警告文を作成し手渡した。

25日、興徳海運所属コンテナ船「MYRIAD」(5403ト)の神戸港入港に伴い、不正労働行為を直ちに止め、受益船主の労組である海員組合とITF承認協約の締結を求めた。

査察活動の重要性を当直部員に説明したが、船主の指示で、乗船を試みた。しかし、以前のタラップを巻き上げるという対応から一転、ITSPSコードに抵触すると主張し、乗船を拒否させるという悪質ぶりをみせた。

こうした行為から乗船はできなかつたが、これまでとは異なり、船長と対話できたことは大きな前進であった。

今回のキャンペーンは、総括として、今後も多数の未組織FOC船に対し、積極的にITF協約締結に向けて取り組むこととした。

# 格差是正 デフレ脱却 経済活性化を図ろう!



連合 闘争開始宣言 2・10中央集会

連合は春闘交渉の本格化を前に2月10日午後6時30分から「2011春季生活闘争・闘争開始宣言2・10中央総決起集会」を東京・千代田区の日比谷公会堂で開催した。構成組織から約2000人(主催者発表)が参加し、「すべての労働者の処遇改善で、配分の歪みと格差を是正し、デフレ脱却・経済の活性化を図ろう!」をスローガンに掲げ、2011春闘のスタートを切った。

古賀伸明会長(中央闘争委員長)はあいさつで「経営側の総人件費抑制の姿勢は変わっていないが、新しいデフレの脱却には賃金をアップしなければならぬ。すべての労働組合がすべての労働者の賃金を1%を目安にアップを図り、格差を是正していかなければならない」と訴えた。続いて、金属共闘連絡会議をはじめとする5つの共闘連絡会議代表者と、中小共闘、非正規共闘代表が、今次春闘に臨む決意を表明した。南雲弘行連合事務局長が「春季生活闘争の課題と今後の取り組み」の提起を行い、働

く者の将来を決める闘い、5つの共闘連絡会議を中心に連合が丸となって頑張ろう」と決意を述べた。その後「スローガンの実現に向け、共闘を軸にすべての組合が置かれた環境のもと、1%を目安に適正な配分を要求し、労働条件の還元・格差の是正を実現しよう。連合は、ここに2011春季生活闘争の開始を宣言する」との「闘争開始宣言」を採択した。最後に、岡本直美連合会長代行の音頭で「ガンバロー」を三唱し、中央集会を締めくくった。

## すべての働く者の労働条件・処遇改善

### 2011連合白書から

景気の現状と  
景気回復への条件  
(1) 縮小志向の日本経済  
経済は、国内需要不足と欧

連合は今年も春闘に向けた情報分析を行い、白書「2011春季生活闘争の方針と課題」を発行した。古賀伸明会長は巻頭言で「今ほど、労働運動の真価が問われている時はない。『働くことを軸とする安心社会』の構築に向け、連合会的春季生活闘争に参画する。白書の一部を抜粋して紹介する。

#### ①

米の経済停滞、円高の影響の中で先行きへの不透明感が強まっており、政府の月例経済報告でも景気の基調判断を「足踏み」状態とするなど、

回復基調にありつつも減速の動きが出てきている。経済の低迷が20年続き、デフレから脱却できない中で、格差社会は深化、貧困層は増大し、ワーキングプアとも呼ばれる年収200万円以下の者も1000万人を超えている。生活保護世帯は2010年7月には、およそ139万世帯とこれまでで最も多くなっており、就学援助を受ける児童・生徒も2008年度には144万人に達し、給食費の未納があったとする公立小中学校も全国で55.4パーセントにもなる(文部科学省)。

労働者の雇用・生活は切り崩され、多くの家計で生活防衛を余儀なくされている。過去1年間の世帯収支をみても4割近くの世帯で赤字となっており(連合総研「勤労者短観」)、消費のレベルを1人当たり「現実消費支出(購買力単価ベース)」で比較すると、日本はOECD諸国の中で第18位と、OECD諸国の平均値をも下回る水準となっている。(次号へ続く)

## ナゴヤシップサービス組合員大会

### 労働環境改善に団結

【名古屋支部 角田貴弘通信】2月1日と2日、平成23年度労働協約改定闘争に向け、ナゴヤシップサービスの組合員大会が開催された。厳しい寒さの中、名古屋支部会議室には休日中や業務終了後などの現場組合員45人が駆けつけ、労働環境の向上に向けて意見交換を行った。



45人が出席した組合員大会

開会のあいさつで森本名古屋支部長は「現場意見をたくさん話し合い、より良い労働協約改定要求を作成したい」と述べた。組合から協約改定闘争に向けたスケジュール、港湾の状況、昨年の要求内容

などを説明し、今年度のナゴヤシップサービスの要求執行部原案を提案した。現場からは反対意見はなく、次年度要求については組合原案を基にすることで一致し、組合員大会を終了した。

大会終了後、現場組合員有志が集まり、組合に対して働

## 基本から握りずしまで

### JSS 第7回船内調理研修

【船全日本海員福祉センター(JSS)は、国立清水海上技術短期大学校で2月1日から3日まで船内調理研修を実施、全国各地から14人が参加した。研修は調理の基本を習得し、司厨部としての資質を高めるとともに、食事による健康管理を学ぶことが目的。包丁の研ぎ方から魚のおろし方、栄養学、食品衛生学まで講義が行われた。

きがいのある職場環境の構築に向けて、頑張ってもらいたい」、「決起集会後の対応は?」など、大会の中では発言できなかった組合員からも意見や質問が感じられた。

それがあれば代用できる」などに、実際の船内調理に役立つ解説も交えながら、分かりやすく楽しい雰囲気の中で講義が進められた。午後8時、すしに挑戦した。講師に地元の「すしが寿」店主の堀さんを招き、魚のさばき方や、すしの握り方などを教わった。魚をさばくのは初めてという受講生もあり、堀さんに手ほどきを受けながら、ヒラメやアジなど8種類

### 組合員人事

- 《異動》 3月1日 大堀二男ⅡITFインスペクター外航勤務(ITFインスペクター関東地方支部勤務)専任部長待遇▽小西竜馬Ⅱ関東地方支部海上技術部員(外航部海上技術部員)
- 《退職》 2月28日 貞方慎吾Ⅱ(外航部海上技術部員)本人申し出
- 《兼務》 1月31日 後藤浩二Ⅱ神戸・鳴門ルート対策委員会委員長(博多海員会館派遣)兼務を解く
- 2月1日 増田常男Ⅱ神戸・鳴門ルート対策委員会委員長(関西地方支部地方支部長)兼務

## 第33期全国委員の当選告示

- 2011年2月15日  
中央選挙委員会 副議長 熊谷 勝明
- 一、2011年2月5日付で告示した第33期全国委員補充選挙については、立候補の受け付けを本日締め切り、立候補者の資格審査を行い、候補者が適格であることを確認した。
- 対立候補者がいない立候補状況であることから、全国委員選挙規則第25条D項により投票を略し、当選人を次の通りとする。
- 《地方区・地方単位》
- 04 関西(補充定員2名・立候補者2名)
- 当選人 熊谷 勝明 北陸支部 支部長
- 当選人 西田 章人 北陸支部 執行部員
- 以上



2日に行われた調理実習では、独立行政法人海技教育機構教育部調理教育室の松田賢栄(まつた・やすたか)先生が、魚の漬け焼き、肉じゃが、ひじきの炒め煮、茶わん蒸し、イカのぬた和えの基本的な作り方とコツを教えた。船内で短時間に調理できるように「肉じゃがの調味料はすき焼きのたれと同じだから、船に



基本も「コツも真剣に